

症例検討会

キサラタン点眼液の眼瞼色素沈着について

平成 25 年 11 月 岐大前店

今回、当薬局で調剤した薬ではありませんが患者さんが 10 年も色素沈着に苦しんでいた事例を報告させていただきます。

患者情報

70 代 男性

R p 1 ミカルディス錠 40m g 1 T
ベニジピン塩酸塩錠 4m g 1 T 朝食後

R p 2 メトグルコ錠 250m g 2 T 朝・夕食後

上記処方クリニックにて継続中でした。

緑内障の治療を他院にて行っており下記の点眼液が処方されていました。

R p 3 キサラタン点眼液 0.005%
チモプトール X E 点眼液 0.25%

先日、定期薬をもらいにみえたときに、実はずっとくまがひどくなったことで悩んでいたがそれが目薬のせいだったことがやっと分かり、対処法もその時に初めて教えてもらったとのこと。10 年間点眼液を使い続けていたがその間、薬剤師は一回もそんなことは教えてくれなかったとご立腹でした。

【 キサラタン点眼液 0.005% の添付文書より抜粋 】

※基本的注意事項

本剤の投与により、虹彩色素沈着(メラニンの増加)があらわれることがある。投与に際しては虹彩色素沈着及び色調変化について患者に十分説明しておくこと。この色素沈着は投与により徐々に増加し、投与中止により停止するが、投与中止後消失しないことが報告されている。また、虹彩色素沈着による色調変化があらわれる可能性があり、特に片眼治療の場合、左右眼で虹彩の色調に差が生じる可能性がある。褐色を基調とする虹

彩の患者において、虹彩色素沈着が多く報告されているが、虹彩の変色が軽度であり、臨床所見によって発見されないことが多い。

※適応上の注意

薬剤交付時

次のことを患者へ指導すること。

- (1) 点眼のとき、容器の先端が直接目に触れないように注意すること。
- (2) 点眼のとき、液が眼瞼皮膚等についた場合には、すぐにふき取ること。
- (3) 本剤と他の点眼剤を併用する場合には、5 分間以上の間隔をあけて点眼すること。
- (4) ベンザルコニウム塩化物によりコンタクトレンズを変色させることがあるので、コンタクトレンズを装用している場合は、点眼前にレンズを外し、15 分以上経過後に再装用すること。

※キサラン点眼薬、トラバタン点眼薬、タプロス点眼薬、ルミガン点眼薬のプロスタグランジン系製剤は同様に色素沈着の副作用が報告されています。

【 対処法について 】

使用する際に点眼後に顔を洗う事でこのまぶたなどの色素沈着は防ぐ事ができます。また治療をやめた際もこの色素沈着は徐々に薄れていきます。注意すべきなのは虹彩の色素沈着です。日本人などのアジア系は瞳の色が茶色なので稀にしか起きませんが欧米などの瞳の色が薄い方は非常に目立ちます。虹彩の色素沈着は戻る事はありません。反対にまぶたは新陳代謝により皮膚の再生により生まれ変わる事から薄くなるためだといわれています。洗顔も推奨されますし、使用後に入浴をしていただいて洗っていただくこともお勧めしています。

【 まとめ 】

今回、「患者に十分説明しておくこと」という一文があるにも関わらず 10 年間も患者さんが苦しむという結果になってしまったことは薬剤師の説明不足に他ならないと感じました。たとえ他の薬局で出している薬だったとしても患者さんの様子をしっかりと観察することで、今回の件はもっと早く解決したのではないかと考えます。その際、やはりお薬手帳の重要性を再認識しました。今後服薬指導の際には、他院からの薬についてもしっかりと注意することを怠らないようにして、患者さんからの信頼を得ることのできる薬局を作っていきたいと思えます。